

長野県総合計画審議会委員からのご意見・ご提言の要旨

(五十音順)

有吉 美知子	委員	1
池田 こみち	委員	2
伊藤 かおる	委員	3
太田 哲郎	委員	4
小宮山 淳	委員	5
近藤 光	委員	6
滝澤 修一	委員	7
平尾 勇	委員	8
藤森 照信	委員	9
藤原 忠彦	委員	10
古田 睦美	委員	11
細川 佳代子	委員	12
松下 重雄	委員	13
矢崎 和広	委員	14
若林 甫汎	委員	15
遠藤 守信	専門委員	16
北原 曜	専門委員	17
花岡 勝明	専門委員	18
樋口 一清	専門委員	19
松永 哲也	専門委員	21
横道 清孝	専門委員	22

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	有吉美知子委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少、少子化、核家族化 ○ 価値観の多様化、生活環境の変化 ・ 経済が発展し、心のあたたかさが得られなくなった。 ○ 県の19年度当初予算において「子ども」に対する支援が少ない。
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 豊かな自然が傷ついた子どもたちを蘇生していく場所になっている。 ○ 子どもたちがのびのびと遊び、元気な声がする社会 ○ 一人ひとりが豊かさを感じられる社会
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 母親が悩みを相談できる場所の設置 ・ 社会全体で支える育児 ○ きめ細かい子どもへの配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害児のサポート ○ 学校における雇用形態(正社員、フリーター)に関する教育 ○ ドロップアウト(高校中退)を減らす施策 ○ 地産地消の推進、県産材の活用 (農産物、木材、大手スーパーによる県産食材の取扱)
そ の 他	<p>「少子化対策」という言葉自体に抵抗感がある。子どもを生まないことが悪いことのような。結婚はしたくないが、子どもは欲しいという人は多い。</p>

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	池田こみち委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境に関する個別の問題へのきめ細かい対応の必要性 ○ 自然保護地域や保全地域以外での自然の保護の必要性 ○ 計画的アセスメント、戦略的アセスメントの必要性 ○ 熊など自然との共生の必要性 ○ 県民全体で水質を保全する努力の必要性 ○ 少子化・高齢化・僻地医療対策の充実の必要性
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総花的、縦割りの的でなく、横断的なものが見える計画を。 ○ 施策の枠組み自体に先見性を。 ○ 環境をベースにした施策展開の推進（環境をベースに教育、福祉、健康、開発等各施策の横断的・組織的対応の推進） ○ 環境を軸として森林を保全・保護しつつ経済の活性化も図る。 ○ 特色ある県下各地域の独自性の発揮と地域の自立した取り組みへの支援 ○ コモンズでいう地域の自立したあり方は重要。 ○ 故郷として住み続けられる県土づくり、県政の充実 ○ そのために現場を重視する姿勢を大切に。
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境を歴史・文化などと同様の観光の魅力的スポットとするなど地域の多様性を経済発展に結びつける。 ○ 森林資源を活用したビジネスモデルの研究など産官学連携した取り組みの強化（森林県としての優位性の再認識） ○ 焼却炉から脱却するゴミ処理行政や飲料容器のデポジット制の導入など先見性、先進性のある施策の推進 ○ 自然、芸術、文化などの地元の資源の有効活用 ○ 県民のエネルギー、知恵、活力を活かす仕組みづくりの推進（効果的な情報公開の推進など。） ○ 安心して出産できる環境の整備に向けた実効性ある施策の構築 ○ 助産師育成のための県独自の施策の展開 ○ 地域に定着する医療従事者の育成 ○ 高齢者にやさしい県・「孤独死」ゼロに向けた総合的な対策の確立
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画に対する外部的評価を取り入れたレビューの必要性 ○ 環境保全研究所との連携強化など県の外部諸機関の有効活用

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	伊藤 かおる 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土台が崩れつつある長野県 ・ 収入の土台（所得レベルの低下、非正規雇用の増加） ・ 産業の土台（整理対象になりやすい工場や空路等） ・ 教育の土台（若年層における基礎学力・体力の低下） ・ 生活・環境の土台（世帯の力の低下と孤立化、崩れる生態系）
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<p>（基本目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「飛躍の力・生きる力をはぐくむ国 ながの・・・土台再構築」 ○ 県民所得の回復（誰もが安心して将来も生活できる、最低限の収入と生活の回復） <p>（施策の展開方向）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の知力と組んだ研究開発・人材育成・知力アップ・新しいインフラ（ソフト・ハード）整備の推進 ○ 誰もが安心して将来も生活できる地域の構築
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<p>（研究開発・人材育成・知力アップ・新しいインフラ（ソフト・ハード）整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1企業1技術を世界に発信（世界中の大学との連携など） ○ ヘリポートとコンピューターによる空路ネットワークの構築 ○ 基礎学力日本一を目指す。（子どもたちの基礎的な体力・知力の回復、企業と連携したワークライフバランスの見直し推進） ○ 世界レベルの研究・教育拠点の形成（世界の知力に会えるナガノ） <p>（誰もが安心して将来も生活できる地域の構築）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安心して悩める地域基盤の構築（孤立からネットワークへそして自立へ） ○ 勤労世帯・世帯縮小を支える生活労働の社会化支援（多様な担い手） ○ 生態系との共存、自然の脅威からの危機管理
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	太田 哲郎 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方交付税の減少（厳しい財政状況） ○ ベースになる経済の活性化策が打ち出せていない。 ○ 県と県の競争意識をもつこと （GDPの低下が激しい）
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県らしさを出す。 ○ 他県と差別化を図り、特色をもった県にしていく。 ○ 経済をベースに環境や福祉を考える。 ○ 明確な競争意識に基づくマーケティングの構築 ○ 教育県 長野（特色ある教育システムの確立・職業観の教育） ○ 犯罪の少ない県N○1 ○ 住んでみたい県N○1 ・ 県外の人が住んでみたいと思う県づくり（人口増） ○ 外から来る人が増えるような県（自然を活かし感動を呼ぶ） ○ 輸出や観光客増大を目指し、GDPを上げる。 ○ 「感動をもう一度」（五輪で得られた世界中の感動を再び長野に）
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業・工場の誘致 ○ 県産材の普及研究プロジェクト、ボランティア・NPOによる森林整備と 県産材特別優遇クーポンの支給 ○ 全県的な思いやりキャンペーンの実施（思いやり全国一） ○ 特色ある教育システムの確立 ○ 中央省庁の一部機能の誘致 ○ 国際会議、学会、フォーラム等の誘致による観光振興 ○ ワイン生産の拡大 ○ マーケティング部の設置
そ の 他	

長野県中期総合計画（仮称）策定にあたっての ご意見・ご提言等の要旨

委員名	小宮山 淳 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少 ○ 若者の健康状態の悪化による健康長寿県の維持への懸念 ○ 中山間地域の衰退への懸念
県づくりの 基本的な考え方 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合計画なので、すべてやらなければいけない。 ○ 長野県がアドバンテージを持っている教育、環境、健康を横糸に考え、その中から特色や強さを出す。 ○ 10年先、20年先を視野に中長期的に考え、孫の世代まで残す視点が必要。 ○ 観光・環境・地域活性化を一緒に考える。
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若者、高齢者、外国人の呼び込み（観光、学生） ○ 中山間地域のコミュニティの維持 ○ 中山間地域がもつ機能の維持 <ul style="list-style-type: none"> ・文化の継承 ・水源等自然環境の保全 ○ 産学官の緊密な連携
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政の説明責任の重要性

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	近藤 光 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少、少子高齢化 ○ 開発から環境重視、水源の大切さの再認識 ○ 国際競争の激化と雇用形態の多様化 ○ 大規模災害の増加 ○ 長時間労働による仕事と家庭のアンバランス ○ 心を病んでいる人の増加
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 恵まれた自然環境を活用 ○ 安定した雇用といきいきと働ける社会の構築 ○ 環境を大切にしつつ、人間との関わりや生活とのバランスや調和も大事。 ○ 効率性と便利さだけを追求すると長野県の良さを失う。 ・コストを考えると集落から街に移り住み、コンパクトにする方がよいと思うが、集落がなくなることで自然は荒れる。 ○ 平凡でも人として尊厳をもって暮らしていける社会 ○ 誰からも、来たい、住みたいと言われる県
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校の職業科の充実と企業との結びつきを強める仕組みづくり ○ 労働者が必要なときに相談できる「安心のサポートセンター」の設置 ○ 災害支援などでの社会貢献と行政等との連携体制強化 ○ 働きやすい企業や社会的役割を負う企業に対する支援 ○ 安心して暮らせるための公共交通システムの構築
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	滝澤 修一 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 強調すべきは地方分権の進展（地方自治体の果たす役割が大きくなる） ○ 道州制はひとつの考え方として有り得ると思うが、地方自治体の役割をもっとはっきりとさせてから行うべき。 ○ 産業、環境、教育もそれなりの水準でそれぞれが頑張っている。 ○ 寒いが住みやすいと評判 ○ 潜在能力も高く、総合的な発展が可能な県 ○ 長野県民の良いところは、まじめで勤勉なところ。だからといって偏屈ではなく、新しいものは取り入れようとする姿勢の両側面があるところが良い。
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画は中身のある実効性のあるものにすべき（現状に即して何ができるか） ○ 長野県の産業構造はバランスが良い。突出したものは無いが、一つ一つをしっかりと育てていくべき。 ○ NPOや民間との絡みについて、なんでも官から民でなく、必要なところは官が行い、民間に任せられる部分があるとしても地方自治体がコーディネートや監督を行うべき。 ○ 住みやすい、働きやすい、学びやすい、楽しみやすい県（一つに特化しない）
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最低限のセーフティネットの充実 ○ 製造業：外から大きな工場を誘致するのではなく、地元の中小零細企業を育成 ○ 観光業：温泉・スキーだけではお客さんは来てくれない時代であり、色々なPR活動を強化すべき ○ 消費生活についての学校・社会教育での充実 ○ 情報公開を行い住民参加の促進 ○ 長野県で人権問題というと部落差別問題に偏りがち。いじめ・男女差別なども学校や社会教育でしっかりやるべき。
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	平尾 勇 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ グローバル化の進展と国際競争の激化 ○ 国の支援の縮小と地域間競争の激化（埋没する長野県） ○ オープンなマインドをもちうるかが問われている。
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産業基盤の強化（産業のイノベーション） <ul style="list-style-type: none"> ・ 川上依存型経済から川下志向型経済への転換 ○ 客観的な視点で過去を見直すことができる生活者の意識改革（生活者のイノベーション） <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちがやってきたことを一歩引いて観察したり、もう一度見直したりすることが必要。 ○ 長野県の自然環境がもつ癒す役割の発揮 ○ 地球規模で考え、地域で行動する
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県産業振興懇談会の議論を踏まえた施策の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業人材の育成 ・ 「マーケティング総合センター」の設置 ・ 「知恵の国」にふさわしい長野県に合った、小ぶりで付加価値の高い製造業・研究所 ・ 提案セールスできるようなマインドをもった企業の育成 ・ ニーズが多様化した小さなマーケットを掘り起こしていくような生産体制 ○ 海外に発信するイベントの開催
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	藤森照信委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<p>(全国)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少にかかわらず、進行し続ける郊外の田んぼの宅地化 ○ 都市の人口減少、中心市街地空洞化、中心市街地地価の高止まり ○ 国全体としての住宅政策の弱さ、土地利用規制の弱さ ○ 農業へのヨーロッパ並みの財政支援の必要性和農地や風景の保全の必要性 <p>(長野県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 虫食いの土地利用、田んぼや里山の宅地化の進行、景観の悪化への懸念
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田んぼ、山岳風景、里山などの優れた景観を生かした県づくり ○ 住宅や景観を中心に据えた施策の推進
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田んぼや里山の宅地化を抑制するための土地利用規制の強化 ○ 環境や景観に配慮した住宅への公的支援 ○ 適切なコーディネーターなどの人材による景観に配慮した集合住宅等の建設など、景観に配慮したまちづくりの推進 ○ 景観法の有効活用 ○ 景観や風景を守る意識の高揚・啓発
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	藤原忠彦委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県は一次産業、二次産業、三次産業がバランスよく調和している。 ○ 信州教育は全国に認知されているので回復させるべき。 ○ 国民保護法の施行などグローバルな危機管理体制の構築の必要性の高まり ○ 民政安定のための消防力と警察力の向上
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柔軟な発想で計画を立案し、県民の身近に置ける親しみやすいものとする。綺麗でなくても、総花的であっても、使える計画を。 ○ 県づくりの最終目標は県民にわかりやすい簡単なものを。 ○ 教育は「郷育（きょういく）」 ○ 衣（医）・食・住が基本。それに情報・交通・交流・高齢が大切。 ○ 地域政策の基本：風の原則（風土・風習・風味） ○ 効率性ばかりを追求するのではなく、「不便」「不利」をうまく使いこなす。 ○ 中央ばかりを向くのではない「下り回線」の発想を。 ○ 尊厳や価値観などの「生きるための付加価値」を重視する。 ○ 物質的幸福度から心理的幸福度を高める政策（福祉、教育、文化）へシフトする。 ○ 安心・安全な県づくり、犯罪のない県づくりを施策の柱に。
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全県レベルでの地産地消の推進 ○ 生命産業（一次産業）を重視し、二次産業、三次産業と結びつけ、調和を図る。 ○ 森林と文化・福祉・教育を結びつけた施策展開 ○ 「低速道路」としての林道整備、周辺の使用した林道整備の推進 ○ 人の魅力による交流人口の拡大 ○ 信州教育の復活の方向提示 ○ 県立高校の村営高校としての設置 ○ 地元の先生の教員配置
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県全体の問題分析を行うために、県の抱える問題を縦断図や平面図などの地図に落とし込む。 ○ 計画は検証可能なものとする。

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	古田 睦美 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少・高齢化による農山村の荒廃 ○ 水源地の森林・里山が荒れる事による、流域や海への悪影響の懸念、生活排水等による環境汚染 ○ 豊かな自然環境が長野県の特長であるのに、足元から地域の資源を崩している側面がある。(温泉街で合成洗剤を使用するなど) ○ 長野県の豊かさについて研究しているが、働き方や暮らし方の面から見ると都市部よりワーク・ライフ・バランスがとれており、自然・食の恵み、歴史文化の豊かさ、相互の信頼・心の豊かさなどの点では世界的にみてもポテンシャルは高い。だが、県民がその豊かさに気付かず、失われつつある。
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県の特性は自然環境や食文化の豊かさと、時間の豊かさ。(都市部の生活は時間貧乏。地域活動や家庭生活の時間がなく、人間らしい喜びを感じている時間が無い。) ○ 生活時間を比較してみると、県内の社会活動時間は量的にも、活動の質においてもとても豊か。地域づくりにとりくむ人材・組織活動の豊富さと人間性の豊かさが表われている。長野県は「人づくり先進県」、人材が豊かといえる。(とくに NPO、農村女性) ○ こうした長野県の特性をふまえ、「自然・食の豊かさ」、「時間の豊かさ」、「人間性の豊かさ(人づくり)」を政策の上で自覚的にあるべき将来像のベースに置き、豊かさのイメージを描くことが必要。 ○ 都市化＝発展というイメージではなく、あたりまえの生活や土とのかかわり合い、トータルな生命観、ほんものの美味しさ、人と人との関係など、既存の豊かさが失われつつある現在、そうしたものの価値を再認識し、意識的に継承、再確立することが重要。
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林業の高齢化対策 (都市女性の農村インターンシップ、1 ターン・アグリ企業支援など) ○ スローフードの価値の見直し、地域の伝統食や地方品種の保存 ○ 農山村の地域づくり、多面的事業の支援 ○ 地産地消の推進と「食農教育」の推進、農村女性の活動支援 ○ 人と自然環境との共存する持続可能な社会作り、環境と調和した観光振興、「住んでよし、訪れてよしの県づくり」の追求。 ○ 「流域」という視点での地域共同管理や社会活動を市民の力で支える体制の構築と人づくり、NPO 活動支援
そ の 他	<p>長野県は食農教育、環境教育の先進県。特に農村女性の人的質、社会的能力の高さは、長年の人づくり施策の成果であり、県の宝である。</p>

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	細川 佳代子 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中央集権国家体制から地方分権体制へ ○ 少子高齢化と人口減少化
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育第一（基礎学力と徳育） ○ 世界で唯一パラリンピック、スペシャルオリンピックスを開催した県として顕著な遺産を残す。 （障がい者や弱者が主役の優しさとぬくもりのある社会の創造） ○ 人間力の回復（命の尊さ、生きる喜び、感謝、を原点に） ○ 共生（ひとりひとりが自立し、違いを認めあい、助けあう） ○ 協働（地域の人が助け合って、すべての人が自己実現をしていく。） ○ 農林業を大切にし、食料自給率を高める ○ 江戸時代の幕藩体制のような地方独立型地域づくり ○ 小・中学校を中心としたコミュニティーづくり
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 独自の教育システム、特別校の設置 （自然と人に親しみ、地域の中にまじわり、奉仕する） ○ SOの普及と障がい者の支援 （優しさ、感動、ぬくもり、よろこびを体験） ○ 助け合うコミュニティーの復活
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	松下重雄委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 豊かな自然などに恵まれ魅力的だが、その魅力を十分に活かしきれていない。 ○ 森林、農産物、コミュニティ、よい治安に恵まれ、魅力度は高い。 ○ 地域や個人間における貧富の格差拡大。
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何かに思い切って特化して、県内外に向けて強い情報発信ができるようなメリハリの効いた打ち出しを。 ○ 長野県に暮らすことが「全国一しあわせ」と言われるような県に。 ○ 「格差が取り払われている県」「行って住んでみたい県」 ○ 昔の奥座敷信州の良さを活かしたまま、中央・世界とつながる。ある部分では「鎖国」的になるぐらいの思い切りを。 ○ 環境重視にシフトし、持続可能な社会、サステナブルな方向へ ○ 既存のインフラの維持改修による延命化 ○ 長野県の魅力を増幅するような活性化を ○ 経済至上主義ではない高い精神性を目指すことも重要
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開発より保護・保存の側に立ち、建設業の事業機会の創出・林業振興・環境保全・景観育成・観光振興・団塊の世代の呼び込みなどにつなげる施策展開 ○ 古民家再生の取組み、古いものの利活用への支援の拡充 ○ 県レベルの景観賞の創設、県産材活用住宅の表彰制度の創設 ○ 開発への独自規制の検討 ○ 団塊の世代が子どもや孫と一緒に連れてくるような施策の創設 ○ コンパクトシティの考え方に立ち、街なかのストックをコンバージョン（用途転換）し活用 ○ お年寄り向けの、お年寄りがもてなす、ユニバーサルな観光地づくり（観光と福祉の連携）
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	矢崎 和広 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までは国・県・市町村の垂直支援だったが、これからは水平協働。行政・NPO・民間企業・住民がどのように知恵・物・金を出し合うかが重要。 ○ 医療が大きな問題になっている。(医師過疎地)
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画が総花的になることは仕方ないこと。 ○ 重点を置いて作るべきなのは、今回の中期計画でいえば医療。他に環境で言えばゴミ処理、産業振興では観光、福祉は障害者、教育は子育て支援など。 ○ 事業税が上がらなければ県の財政はやっていけない。重要ではあるが環境をベースにする事は困難である。福祉、環境、教育が同列にあり、片方に産業がある。
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県と市町村と民間で、どういったパートナーシップを組んでいくか。 ○ 自助共助のまちづくり（地域コミュニティの充実） ○ 横断的なプロジェクトが必要（観光で言えば、環境・農林業などとの連携）
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	若林 甫 汎 委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成熟社会で個人が満たされているので、次の方向性を出すのは勇気がいる。 ○ 今は全体的に元気がない。 ○ 計画の実践
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画の中に一本筋を入れることが大事。教育を横軸にするのはよい。 ○ 一点突破型の元気が出る打ち出し ○ 特に誇れるものは、健康と長寿。 ○ 「心の豊かさ」、「世界との共存」のレベルアップ ○ 産業間の連携、消費地との連携、産学連携による産業の高付加価値化 ○ 教育を通じて、長生きで個性的な人がたくさんいる県
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ シンクタンク、アクションの一体的機能をもったコンピネーションセンターの設置（産業間の連携、消費地との連携、産学連携） ○ 森林セラピーなど自然環境を活かしたデータに表れない新たな産業の創出 ○ 基礎学力の向上、家庭や地域における教育、食育 ○ 子どもの頃からの健康づくりの習慣化 ○ 企業の自発的な社会貢献
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	遠藤 守信 専門委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様性の時代で、多様な個性を成長させるべき。 ○ 長野県は山国で基本的に貧しい。信濃教育はそういう背景があって、教育重視という地域性がある。 ○ 人口減少により産業の基盤が沈下していくのは明白 ○ 長野県のGDPはフィリピンやニュージーランドとほぼ同じくらい。国と対抗するだけの独特の個性と地域の連帯感を。 ○ 長野県はみんなが協調し、お年寄りに優しい社会を作っている。
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人づくりが産業の基本 ○ 付加価値の高い産業が集積するような地域を。(長野のナノテク・バイオ技術の活用により東洋のスイスが当てはまるように。) ○ 偉大な田舎長野県。豊かさが実感できる優しい長野県 ○ 優れた教育が産業や長寿を支え、素晴らしい県民を育てている。シリコンバレーのような地域がこぞって発展できる、新しい産業のビジネスモデルが必要。その際、発展著しいノルウェー、デンマーク、フィンランドなど北欧諸国の教育、イノベーション戦略を導入
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中・高校の教育を充実させ、個性教育を確立する。(基礎教育は人間としての判断力を涵養し、優れた創造力を自然豊かな環境で育む；長野県教育。) ○ 大学は企業と知的連携を行い、行政は場づくりを行う。大企業を中心とした大中小連携から転換して、大学を中心とした学中小連携の長野モデルをつくる。 ○ グローバルに活躍できる柔軟性のある中小企業の支援、世界市場に目を向ける戦略 ○ 有望な技術に対して補助金を出すなど、未来へ向けた新しい目を育て上げる自前の長野県企業の創出。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 未来への提言は継承する、しない以前の問題。地方自治体として当たり前の事。そういったものの上でやっていくべき。 ○ 本県の社会全体の教育ポテンシャルは高く、思い入れは湧き上がるものを感じる。大人が率先して勉強する県民性の再構築、これこそ北欧諸国の発展の原動力であり本県にはそれに通ずるものがある。

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	北原 曜 専門委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球温暖化・人口の爆発的増加・食料資源の枯渇・エネルギー争奪を念頭に置いた課題と対応の必要性 ○ 少子高齢化の深刻化 ○ 農山村の疲弊の進行（中山間地の人々が地元に残れるように、地域の特色を活かした地域づくりが必要。） ○ 長野県の自然の保護（亜高山帯・高山帯の植物の豊富さと、この地にしかない特産は、長野県の財産。） ○ 学生の学力の二極化の進展（点数のグラフを見ると、二山となり成績の良い子と悪い子とが分かれてしまっている。） ○ 農林業の振興の必要性（地球上での人口の増加に対する農地の保全。鹿や熊の獣害で耕作意欲が失せている。） ○ 交通網の不安（利益追求で良いのか。一つの県でありながら主要都市の間の公共交通機関の便が悪すぎる。）
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済的にも社会的にも環境的にも安心して暮らせる県づくり ○ 産業や環境が保障され、魅力ある長野県にすることにより都会へ出た人達を呼び戻す。（景観が良ければ団塊の世代も住みやすい。良いセンスを持った人の定住により、県民にも良い刺激になる。） ○ 防災と自然保護の調和。里山の防災体制の整備。 ○ どこに住んでいても安心して暮らせることが基本（バスの便が減るなど、山村部では暮らしにくくなっている。）
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来を担う子供への教育の充実（人格も教養も大事に育てていく必要がある。向学心をうまく育て、勉強する事がどういった役に立つのか根本的な指導を行うべき） ○ 山村の課題はそれぞれでリンクをしているが、就労の場の確保が基本。 ○ 仕方の無い時代の潮流の中にも、長野県独自の知恵と努力である程度軽減できるものはある。
そ の 他	

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	花岡 勝明 専門委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少社会の到来 ○ 厳しい財政状況 ○ 総合的、体系的県政運営の必要性
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画は簡明で可能な限りわかりやすいものに。 ○ 計画の大項目（第二次長野県中期総合計画の各章に相当）は、行政の組織区分に近いほうがわかりやすく、利用しやすい。 ○ 総合的な戦略提起は、「戦略プロジェクト」の中で示す。 ○ 財政計画や行政改革の明示 ○ 行政目的ごとに策定された各種県計画と総合計画との関連を体系化し明確にする。
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県の各組織がそれぞれの行政目的を実現するため、着実に施策を実施することが、まず重要。 ○ 総合計画では、それぞれの行政目的を整理・体系化しわかりやすく県の進む方向を県民に示すとともに、県政の主要な課題を明確にする。 ○ 人口減少社会に対応した施策の実施 ○ 観光振興の重点的推進
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合計画の改訂システムの構築（中間年における数値目標の改訂や主要施策の追加削除など）

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	松永 哲也 専門委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国を上回る人口減少 ○ 地方交付税の減少、中央政府の地方切り捨て意誠の高まり ○ 製造業：人口が増加している世界に向けた輸出ビジネスの展開 ○ 観光：インバウンド（訪日外国人旅行者）の誘客の促進
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界が変わっていることを知ること。長野県が変わらなければいけないことについて、前向きに取り組んでいくこと。 ○ 社会・産業構造の変化に対する柔軟性の発揮。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い技術力を活かした製造業の活性化が最大の生残り策。 ・ 潜在力はある。それを活かす。（製造業・観光）
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製造業 工業技術センターの拡充、産学官連携、ものづくり大賞（品質表彰）、県レベルの工業メッセ、企業誘致（助成金、基盤整備、優遇税制、自治体トップの熱意）、雇用の増加を通じた非製造業への波及効果 ○ 観光 インバウンド向けウィンターリゾートの確立、観光地のブランド化（世界遺産、ラムサール条約）に向けた官民一体の努力 ○ 交通基盤の整備：松本空港の国際化等
そ の 他	数値目標：県民所得、製造品出荷額、企業誘致数、インバウンド（外国人観光客数）等の全国順位

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	松永 哲也 専門委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国を上回る人口減少 ○ 地方交付税の減少、中央政府の地方切り捨て意識の高まり ○ 製造業：人口が増加している世界に向けた輸出ビジネスの展開 ○ 観光：インバウンド（訪日外国人旅行者）の誘客の促進
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界が変わっていることを知るということ。長野県が変わらなければいけないことについて、前向きに取り組んでいくこと。 ○ 社会・産業構造の変化に対する柔軟性の発揮。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い技術力を活かした製造業の活性化が最大の生残り策。 ・ 潜在力はある。それを活かす。（製造業・観光）
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製造業 工業技術センターの拡充、産学官連携、ものづくり大賞（品質表彰）、県レベルの工業メッセ、企業誘致（助成金、基盤整備、優遇税制、自治体トップの熱意）、雇用の増加を通じた非製造業への波及効果 ○ 観光 インバウンド向けウィンターリゾートの確立、観光地のブランド化（世界遺産、ラムサール条約）に向けた官民一体の努力 ○ 交通基盤の整備：松本空港の国際化等
そ の 他	数値目標：県民所得、製造品出荷額、企業誘致数、インバウンド（外国人観光客数）等の全国順位

長野県総合計画審議会委員からの ご意見・ご提言等の要旨

委員名	横道 清孝 専門委員
長野県を取り巻く 大きな環境の変化 ・ 長野県の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ グローバル化（国際的な視野で考える時代） ○ デザインやソフトがより付加価値を生む時代 ○ 基礎自治体の役割、道州制の検討
県づくりの 基本的な考え方 ・ 長野県のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ グローバルマーケットの中における産業振興 ○ 10～20年後の生活圏を見据えた市町村のあり方 ○ 基礎自治体が力をつける必要
長野県のあるべき姿を 実現するための施策 ・ 優先的に取り組むべき テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製造業の集積を活かすとともに国際展開可能な企業への支援の充実 ○ 産業構造の転換（「ものづくり」から「デザイン」へ） ○ 団塊の世代の呼び込みなど中山間地域活性化の新たなモデル ○ 団塊の世代、外国人を対象にした観光振興 ○ 農産物のブランド化と輸出の促進 ○ 世界の木材需給の動向を踏まえた森林整備の推進 ○ 海外の教育を意識した教育の推進
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画では夢の部分と施策の部分をつなげていくことが大切